

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Top

【神奈川県社会人サッカーリーグ1部(KSL-1)】

▼第11(最終)節

vs FC ASAHI	1-3●
※12 チーム中第3位	

Youth

【県U-18 リーグ】

vs 聖光学院	1-1△
---------	------

Junior Youth

【横浜市長旗杯区予選】

▼1回戦

vs 神奈川朝鮮中	1-5●
-----------	------

【県U-13 リーグ】

vs 大綱中	1-2●
--------	------

小6

【国際チビッ子】

vs 横浜かもめ SC	0-1●
-------------	------

vs 若葉台 FC-B	0-0△
-------------	------

vs 磯子 SC	0-1●
----------	------

vs 市が尾 FC ブリーオ	0-1●
----------------	------

vs 瀬谷サンダーキッズ	0-1●
--------------	------

小4

【横浜国際チビッ子】

☆A チーム

v 六ツ川 SC	0-3●
----------	------

vs 今宿少年	0-4●
---------	------

vs FC 杉田-A	0-1●
------------	------

vs 一本松 FC-B	0-1●
-------------	------

vs FC 隼-B	5-1○
-----------	------

vs 青葉 FC-B	2-0○
※7 チーム中第6位	

☆B チーム

vs 青葉 FC-W	1-6●
------------	------

vs 市が尾 FC ブリーオ-W	0-2●
※7 チーム中第7位	

小2

【横浜国際チビッ子】

☆A チーム

vs 横浜 GSFC	0-4●
------------	------

vs あざみ野 FC-B	0-3●
--------------	------

vs FC ゴール	0-0△
-----------	------

vs 山田若竹 SC	0-4●
------------	------

vs バディー-SC-B	0-11●
--------------	-------

vs エストレーラ FC-A	0-4●
※7 チーム中第7位	

☆S チーム

vs フレンド SC	0-4●
------------	------

vs 万騎が原 FC	1-1△
------------	------

vs ニツ橋 SC	1-3●
-----------	------

vs エストレーラ FC-B	1-0○
----------------	------

vs FC ゼブラ-A	0-9●
-------------	------

vs 丸山台 SC	0-1●
※7 チーム中第6位	

Papas

☆マスターズリーグ

【県マスターズリーグ】

vs 横浜	0-11●
-------	-------

vs dfb	2-1○
--------	------

vs 川崎	0-2●
-------	------

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀4部】

vs 大和	1-0○
-------	------

vs dfb パフォーマーズ	0-2●
※14 チーム中第8位	

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀3部】

vs dfb テヴェントス	7-1○
※13 チーム中第1位で2部昇格	

今、グラウンドでは・・・

Top

【県リーグ3位】

Top チームは10月4日(日)に県リーグ最終戦を行い、1-3 で FC ASAHI に敗れました。勝てば自動的に2位以内を確保し、関東社会人大会に出場権が得られる大事な試合でした。

試合内容としては、ゲーム開始直後に FC ASAHI に CK からみごとにヘディングシュートを決められ、また、その後 FK から再びヘディングで決められ前半で2失点。後半開始直後には退場者を出し劣勢にたたされ、それでも後半は終始押し気味で試合展開したものの、PK による1得点にとどまりました。今シーズン初めてのクレー



グラウンドでの県リーグ戦、いつも練習しているグラウンドと同じなのですが、基本的なボールをコントロールすることに時間がかかってしまい、練習で行っている戦術ができませんでした。また、相手の空中戦に対しても、DF が相手に付ききれず、フリーでヘディングされたことは反省材料です。

それでも10月11日(日)に行われた六浦FC vs 横浜猛蹴で六浦が敗れば、かながわクラブが2位でした。注目が集まる一戦は六浦が3-1とリードして、後半横浜猛蹴の猛攻で3-3の同点、しかしそこでタイムアップ。かながわクラブと六浦は勝ち点で並んだものの、得失点差により3位が決定しました。

今シーズンの分析は来月以降に行いますが、今まで残留争いを毎年繰り返して、ぎりぎり残留して喜んでいたチームが一転、関東社会人大会出場を逃して悔しい思いをしたチームになりました。今年今までの最高成績で3位になったことは、Top チームには財産です。来年の県リーグは強豪チームが集まりそうで、再び残留争いに巻き込まれる可能性があります。そのためにも気持ちを切り替えて、次のステップに進まなければなりません。

今シーズンは皆様の声援が大きく聞こえたシーズンでした。選手たちも皆様の応援に応えられるようなチームになるよう努力していきます。これからも Top チームの応援をよろしく願いいたします。

(中本 洋一)

☆Top チーム公式 Web サイト

<http://www.kanagawaclub.com/topsteam/>

【選手紹介⑭】



Top チーム選手紹介第14回目は、今シーズン県リーグフル出場 Top チームの守備の要 33 瀬田選手です。

33 瀬田選手の持ち味は、なんとと言ってもどんなに速い選手に対しても、粘り強く体を張ってボールを奪いに行く守備力です。また、県リーグ終盤では、負傷のキャプテン眞弓選手に代わり、チームをまとめる役

もこなしました。今年の県リーグ、最大の山場のさがみ大沢戦で勝利した後に、精根尽き果て一人ゴール前で倒れこむ姿は、試合に賭ける意気込みと 33 瀬田選手の気持ちの強さを感じたシーンでした。試合に対して自分に厳しくがんばり抜く精神力はユース年代の良い見本になると思います。来シーズンも 33 瀬田選手の強さに注目です。

☆瀬田選手からのコメント

今年度の県リーグもたくさんの応援に来てくださりありがとうございました。

結果は3位で、残念ながら関東リーグ昇格戦には出場できませんでしたが、これまででは考えられない勝ち点を取ることが出来ました。みなさまの熱い応援があってこそこののだと思っています。

僕は今年大学を卒業し働き始め、学生の時と比べると自主トレなどをする時間もなかなか取れず、働きながらコンディションを維持するのはとても大変だとわかりました。

しかし「サッカーがうまくなりたい」という気持ちは今も変わらずもっているため、限りある時間の中で、何が自分に足りないのか常に「考えて」練習に取り組んでいます。

今シーズンの課題を克服して、個人的にもチームとしてもレベルアップして来シーズンを迎えられるよう、頑張っていきたいと思っています!

Youth

【雨中の戦い方】

先日行なわれた県 U-18 リーグは、生憎の雨の中での試合でした。

試合前は具体的な指示は出しませんが、いざ始まってみると、水溜りはありませんが、ゆるくなった地面にすぐに足を取られる状態です。こういうなかでは、パスを丁寧につなごうとするとかえって危くなります。

乱暴ですが、早めにゴール前に放り込み、セカンドボールを拾い、そのままシュート、もしくはそこから一旦サイドに展開させる戦法にきりかえます。

やり慣れていないためイメージどおりになかなかいきませんが、単純に前に

蹴ってセカンドボールを拾おうとする意識は感じられました。

そんな中で、DF からのロングパス1本でFWがゴールを決めたことは狙い通りですし、パスを出した選手も、受けて決めた選手も素晴らしかったと思います。

前半終了間際の気が抜けた瞬間に CK からの失点で同点とされたのはいい勉強です。

体力的にきつい戦法を採用せざるを得ませんでした。選手たちは最後までよく頑張りました。結局 1-1 の引き分けに終わりましたが、勝ってもおかしくない試合でした。でもこれもまたサッカーです。

戦術は「何をやるか」ということよりも「いかに全員が共通理解をもてるか」が大切です。

今回は少し成長した選手を見られた気がします。(内田 佳彦)

Junior Youth

8月末から立て続けに入ってきた公式戦が一段落し、3年生が出場できる公式戦は残すところ「県 CJY(U-15)リーグ」だけとなりました。

その3年生も今後は受験モードに切り替わってくる時期に入ります。

ということは、2年生・1年生にとっては甘えが許されなくなるということを意味します。

プレー中はもちろんのこと、あらゆる面で頼りにしていた3年生がいなくなるということで自分たちが先頭に立ってやるしかない状況になり、より一層の責任が出てくるということです。

特に今年の3年生は、県 U-13 リーグの時でも誰に言われることなく後輩のサポートに駆けつけてくれるような先輩たちです。

2・1年生たちは、今までそんな3年生の背中をずっと見てきているはず。その中で何かを感じなければいけないし、何かを学ばなければいけない。そして、これから先、見られる側に立場が変わっていったときにそれを生かしていけば良い、ということは日頃伝えていることです。

意識や姿勢が変われば、それがプレーの成長にもつながってくるでしょう。3年生

がいるのも残りわずかです。今のうちから自覚をもつことで自分たちの代に向けて良い準備をして欲しいと思います。

(二木 昭)

小 6

この記事を読むときには、国際チビッ子も無事終了していることでしょうか。1勝できているのか、未勝利で終わっているのか…。

選手は練習以上のことを試合で行って来ています。「こんなサッカーできるんだ」と感心させられる試合もありました。内容自体はとてもよいと思います。ただ、結果が伴っていないのが残念でなりません。(勝たせてあげられなくて申し訳なく思います)

今後は、ボールコントロール・個人戦術・パスの質(強弱・球種等)をテーマに練習を進めていき、公式戦は来年までありませんが、練習試合などで成果を確認していくつもりです。(高田 成典)

小 5

【小5選手の皆さんへ】

日頃、皆さんは自分のことは自分で解決するようにしていますか。以前から、サッカーの準備は自分でできるように伝えてきましたが、もうそろそろ、一人でできることについては、可能な限りトライする時期にきていると思います。以下のチェック項目で確認しながら、どのあたりが足りていないのかを各自で確認してみてください。

・クラブの活動に際し、必要な準備をすべて自分で行う。(弁当は無理だと思えますが…。)

・乗車券を自分で購入する。

・汚れた衣服などを自分で洗濯かごに入れる。

・サッカーシューズの手入れをする。

・学校に登校する準備を自分で行う。(忘れ物をして困るのはあなたです。)

・自分でスケジュールを立てて、宿題などをかたづける。(勉強は、優先順位の最上位にあるものです。)

・自宅で食事を済ませた後、食器の後片付けをする。

・寝床の準備を自分で行う。

・問題に直面した時は、周囲の大人に質問するなどして、自らその解決に努める。

上にあげた項目は一つの例にすぎませんが、どれもサッカーに限らず人として当たり前のことを列挙したつもりです。すでにやっていることについては、これからも継続しましょう。そして、まだやったこともない項目がある場合は、トライしてみてください。小さなことかもしれませんが、その積み重ねがピッチ上のパフォーマンスにも必ず良い影響を及ぼすと思います。なぜなら、サッカーは自分で考え、決定し、そしてその判断のもとにプレーするスポーツだからです。皆さんの変革に期待しています。(鈴木 章弘)

小 4

【国際チビッ子を終えて】

今回の国際チビッ子は、残念ながら両チームとも決勝トーナメントに進むことができませんでした。敗因は、細かいことを挙げれば色々ありますが、一番大切なことは「いつも通りのプレー」をすることができたのか? ?ということでした。

相手に遠慮してしまったり、場の雰囲気にならされてしまっていつものプレーが出来なかったのが今回のチームの課題だと思いました。プロでもいつも通りのプレーをするのは、難しいことですが良い選手になる条件の一つだと思ってこれからこの課題に取り組んでもらいたいと思います。

良かった点は、今までプレーに自信がなかった選手が試合で伸び伸びプレーする姿、普段プレスキックを蹴る機会がなかなか無い選手が試合で良いボールを蹴る姿、一生懸命ボールを取り返そうとする姿、会場に向う際の電車と身体が不自由な方に自分から席を譲る姿など、ポジションや場面などは違いますが、成長した面も見ることが出来ました。

結果には、現れませんでしたでしたが大会に参加してよかったと思います。次は、納得がいく内容・結果が出るように一生懸命練習しましょう!!

応援して下さった保護者の皆様・お忙しい中審判を引き受けて下さった保護者

の方・サポートして下さったスタッフの方にこの場を借りてお礼申し上げます。

(丸山 祐人)

小 3

【いろいろな経験】

先日のSWに、前日の懇親会疲れ(!?)と渋滞もよそに「国際交流サッカー大会 U-12 前橋市長杯」を観戦に前橋まで行ってきました。国内からは在日朝鮮選抜、地域トレセン・選抜、クラブチームおよびJリーグ下部組織が計 22 チーム、海外からはオーストラリアから2チームの計 24 チームが参加し行われました。今回で 13 回目とのこと、海外から来たチームはホームステイをしながら群馬県内を散策したり座禅を組んだりと日本の文化に触れる機会を持つそうです。大会は3日間にわたり順位を決めるリーグ戦が行われたのですが、今回勝敗以上に興味深く見ていたのがオーストラリアから来たチームの子供たち。「子供たち」とは言うものの、まあ背が大きいこと大きいこと。後で聞いたら 14 歳まで(国内のチームは小 6・12 歳までの選手が参加していたようですが、プレーもダイナミックで楽しそうにサッカーをしていました。(もちろん日本の選手たちも頑張っていました。写真を見るとすごく小さく見えますが。))しかし、それ以上に興味したのが彼等の「積極性」。ホームステイをしているのであろうチームの子供たちとのやり取りはとても言葉が通じない者同士とは思えないほど意気が合い(笑)、また、表彰式前後にはユニフォーム交換を求めてたくさんの子に声を掛け続ける姿は日本の子供たちにあまり見ない姿でした。(こちらは微笑ましく見ていたのですが、クラブ持ちユニフォームで勝手に交換できない子たちはちょっと引いてました。)

さてさて。今回このような大会があることを知ったことありますが、かながわクラブの子供たちにもホームステイや海外の選手たちとの交流があれば良いな、機会を作れたら良いな、と思った次第でした。先日も区選抜関連では中国の子供たちとの交流があったようですが、どこかではまた是非実現したいと思います。

(大会詳細はこちらです。→
<http://www.jr-soccer.jp/maebashi2009/index.html#yoko>)



【インフルエンザ】

猛威を振るっているようです。クラブとしては通常どおり活動を行います。公式戦や練習試合などは状況により変更になることを事前にご理解ください。元気に活動に参加できるよう。予防のためのうがい・手洗い・顔洗いの励行をお願いします。

(小野 津春)

小 2

【リーグ戦を終えて…】

今回エントリーした2チームの結果は青チームが7チーム中7位、得点0で、白チームが7チーム中6位、得点3でした。初めての公式戦で、走ることと蹴ることを鍛えてきたチームにはなかなか結果が出せませんでした。しかし、子どもたちにはユニフォームの違う相手との初めての公式戦は、貴重な経験として、様々な思いが胸に刻み込まれたのではないのでしょうか。試合が終わって、大人があれやこれや話をしたところで、興奮状態の子どもたちの胸には響きません。それより一人一人が自分の心の中で振り返り、そこで湧いてくる感情を噛み締めることが大切です。かながわクラブでは、子どもたちの成長過程を考慮して、走ることや蹴ることを鍛えるには未だ至っていません。だからといって負けてもいいとは決して思っていません。自分たちの身につけた技術で相手に勝つことができればそれは意味のあることです。また、負けたとしても、自分たちの技術がどれくらい発揮できたかが大切なのです。負けて悔しくない子どもはいないでしょう。負けた悔しさをエネルギーにして、さらに自分たちの技術を向上させるように

頑張りました。

今回のリーグ戦に臨むにあたり、第一の目標に掲げたのが「上手くても下手でも、勝っていても負けていても、10点取られても、20点取られても、最後まで諦めずに一生懸命にボールを追いかけ、ボールを奪ったら、ドリブルで相手をおかわしながら、1点を取りに行くこと」でした。簡単に言うと「一生懸命にやるということとドリブル」の2点になると思います。伝統的に「蹴って走って」というチームには気後れしてしまって、自分たちの練習してきたサッカーができないことの多いかながわクラブの子どもたちですから、今回は一生懸命にやるという精神論からアプローチしてみました。

【一生懸命に取り組む！】

こうした気持ちの部分は如何にサッカーに集中させるかに左右されます。ON と OFF の切り替えを上手にさせると言っても良いでしょう。子どもたちは公式戦のグラウンドに着けば、その雰囲気からサッカーをする気持ちにはすぐになります。しかし、子どもたちの集中力には限度がありますし、それほど長い間持続できるものではありません(勿論、大人だってそんなに長時間集中はできませんから)。子どもたちをほぼ一日サッカーだけに没頭させることは不可能と言わざるを得ません。サッカーの試合をしにきたのだから、サッカーの練習をするのだ、他のチームの試合も観戦するのだというのは正論のように思えます。しかし、子どもたちは、朝集合し、電車に乗るところから「ふざけるな！ちゃんとしろ！」と厳しく縛りつけられ、グラウンドについても「やる気あるのか？」と怒鳴られ、試合の合間にはひたすら練習三昧、もし試合で負けでもしようものなら、指導者たちのストレスが心無いことばとなって、容赦なく子どもたちに浴びせられます。これではサッカーが楽しくありませんし、楽しくなければ集中もできません。集中できなければ一生懸命に取り組むことは至難の業でしょう。

確かにサッカーの試合に出かけるのですが、多少ピクニック気分でも良いのではないのでしょうか。電車に乗るのが楽しみ、

お弁当が楽しみ、みんなとワイワイ遊ぶことが楽しみ、そして何よりもサッカーをするのが楽しみということで十分ではないでしょうか。ですから、試合以外の場面では出来る限り子どもたちの自由にし、試合の合間には徹底的に遊ばせるようにしました。結果を数字で見れば7チーム中6位と7位ですから決して気持ちの切り替えがうまくいったとは言えないかもしれませんが、しかし、試合によっては非常に高い集中力を持って臨むことができた試合もあり、実力差を埋めて余りある結果を残せた試合もありましたので、私自身の評価としては、かながわクラブの伝統である試合の合間に遊ばせた結果はあながち悪くないと考えます。

【技術的な目標】

第一に掲げた目標の後半部分には「～ドリブルで相手をおかわしながら…」とあります。これが技術的な目標と言えるでしょう。常に言っているように、普段練習していることしか試合ではできません。しかも試合では練習と違って相手がいるので、100%できるとは限りませんが、限りなく100%に近づく努力を試合の中ではしなければなりません。普段練習しているドリブルで相手をおかわし、シュートまでをどれくらいできているのか、あるいはできなくてもやろうとする姿勢が見られるかどうかの評価のポイントになります。

試合を重ねるごとに集中の度合いも増し、自分たちが練習してきたことをやろうとする姿勢が見られるようにはなりました。しかしながら、相手の走る速さや蹴る強さに吞まれてしまって、ボールを奪うことすらできずに、終了のホイッスルを聞いた試合もありました。「同じ2年生なんだから…」というアドバイスも、虚しく青空に吸い込まれていってしまいました。できれば走る速さや蹴る強さで勝負せずに、ボールを止める、運ぶ、相手をおかわす、ボールを隠すという事で勝負をして欲しかったものです。今後はどんな相手に対しても、物怖じせずに相手をおかわす、ボールを隠すことができるように練習しましょう。

【団子サッカーからの脱却に向けて】

もう一つの目標として「味方がボールを持ったらずし離れましょう」というのもありました。団子状態のサッカーから一歩ステップアップするための目標です。ボールが次にどこに動くのかを予測するきっかけとして、そして視野を広げ、最終的にはパスにつなげるための初期段階です。こちらは練習してからまだ1ヶ月ほどしか経っていないので、それほど消化し切れてはいません。これからも課題として継続していきたいと思います。

【最後に…】

貴重な連休にもかかわらず、サッカーを優先させて引率やお弁当作りなどご協力をいただいた幹事やご父母の皆様方には、この場を借りてお礼を申し上げます。数字的には歯がゆい思いをされているご父母も多いかとは思いますが、あるいは会場では遊ばせずにもっと練習させるべきだとかお考えのご父母の方々もいらっしゃるかもしれませんが、前述のような考えをご理解いただければと思います。このままずっとサッカーを続けていけば必ず上手になりますので。

最後になりましたが、審判部のお父様方にはいつものことながら審判をお手伝いいただき有り難うございました。おかげさまで子どもたちのことだけを考えてリーグ戦に臨むことができました。(佐藤 敏明)

幼児・小 1

【ゲーム的色彩を…】

現在、ドリブルを中心に練習を組み立てています。そのドリブルも、できるだけゲーム的色彩を取り入れ、楽しく競わせることで自然と技術が向上するように考えています。低学年の子どもたちの集中力はほん数分しか持続できません。それでも、成果を挙げるにはある程度の時間集中させる必要があります。そのためには楽しさと競争意識を取り入れることが不可欠です。子どもは本来、楽しくなければ取り組みませんし、競うことが大好きですから。

【ミニゲームを…】

一人一人の技術を向上させるには、数多くボールに触れることが大切です。特に低学年の年代ではゴールデンエイジにつながる前のプレゴールデンエイジとも称され、神経系統の発達が著しくなる年代です。走る速さやボールを蹴る強さよりもボールに触れる感覚を養う最良の時期です。ですから4人対4人のミニゲームを数多く行います。人数が多くなれば、それだけ一人がボールに触れる機会が減ります。1人対1人、2人対2人、3人対3人と徐々に人数を増やしていき、最終的には4人対4人のゲームにたどりつきます。11人対11人で行う試合のあらゆる要素が4人対4人のミニゲームには含まれています。そして、何よりも数多くボールに触れることができます。サッカーは11人で行うものだという常識は子どもたちのサッカー技術の向上のためには捨てていただきたいと思えます。

【公式戦では…】

今回2年生の公式戦に6人の1年生が参加しました。先月号にも書きましたが、あくまでも現段階で2年生と同じ程度の頑張りが期待できるという基準で連れて行きました。予想通り2年生と同じくらい、あるいはそれ以上の頑張り度で試合に臨んでくれました。彼らが経験したことは1年生の練習に戻ったときにきっと役立つはずですが、他の1年生も彼らと一緒に練習をしながら、自分との違いを肌で感じ、その差を埋めるべく努力をしてください。

上手な人と一緒に練習をすることで、確実に技術は向上します。是非憧れの選手や上手な人を目標にしましょう。また、現段階で上手でも努力しなければすぐに立場が逆転してしまいます。今回選ばれた6人も油断は禁物です。もっと上手な2年生を目標にして、そして今回の経験を活かして、努力を続けましょう。(佐藤 敏明)

Papas

【シニアリーグ4部(Rec)総括】

10月11日に今季の最終戦を終えました。シニアリーグ4年目の成績は、5勝6敗2分け(得点 15、失点 21、勝ち点 17)で10/18現在の順位は14チーム中で8位で

す。これは4年間で最高の勝利数(06年4勝4敗3分け、07年3勝8敗2分け、08年1勝10敗2分け)となります。特に昨年の順位(14チーム中13位)を一気に引き上げることができました。それにはいくつかの要因があります。まず第1に、寺田さん、斎藤さん、河南さんの加入によって毎試合の参加者数が平均13.3人(昨年は11名に満たない試合あり)となったこと。次に、得点が増えて失点が激減(06年11試合で12得点18失点、07年13試合で13得点31失点、08年13試合で10得点42失点)したこと。そして、4年目を迎えてチームとしてのまとまりができてきたこと、です。また、今年の特徴として「ゲーム体力」がついてきたことが挙げられます。同点または1点リードしたまま乗り切った試合が5試合ありました。もちろん、大敗を喫した試合(0-5,1-4)もありました。この2試合は先制点がとれないままズルズルと失点を重ねてしまいました。仕事や家族サービスや怪我のため、全日程を通して十分に余裕ある人数が参加することができなかった点も今後の課題となりました。中には20名近く参加しているチームもありましたので、来季は全員参加で試合に臨めることを期待しています。尤も、全員が参加すれば、前・後半で総入れ替えをしなければなりません！

今年は県議長杯にはエントリーしませんでしたので、この後のシニア公式戦はありませんが、マスターズと市交歓試合が残っています。港北小での活動に徐々に参加していただき、体力を維持しながら、来季に向けてしっかりと充電していただきたいと思います。(Rec 監督:浜野 正男)

ヨーガ

あのイチロー選手がテレビのインタビュー番組に出演していました。

彼自身の語りで、あの World Baseball Classic の韓国戦での2点タイムリー決勝打を打った打席に立ったときの心境を振り返っていました。「こんな緊張を感じたことは今までになかった。」「プレッシャー、恐怖…なんと言ひ表したらよいのか…。」

そりゃそうです。なにせあの大きな試合で対韓国。延長戦。2アウトでランナー

1,3塁。おまけに早いカウントで2S:1Bと追い込まれました。にもかかわらず、そこからファウルでしのでの8球目！綺麗にピッチャーを超えてのタイムリーヒット！思い出しても鳥肌が立ちます。

てつきり彼はプレッシャーに強いのか？と思っていました。そうでもなさそう。重圧がかかるとまず血の気が引く、そして脈が速くなる、そのうちに吐き気を催すそうです。なんだ、私と一緒にだ。

にもかかわらず、ここぞというところで力が発揮できる彼の強みは、そんな自分をいつものようにプレイに集中できるようにコントロールするすべを持っているということなのでしょう。

まわりからは淡々と落ち着いているように見えても、イチローだって心の中ではギリギリの自分をどう処するかで必死なのです。そうなんだ。そうだよ。イチローだって人間ですものね。あ～良かった。大事なところで緊張しちゃうのは私だけじゃなかったんだ。

おし！私も自分をもっと見つめて、イチロー選手みたいにプレッシャーを感じても力を出し切れるようになるぞ！っと。

(伊藤 玲子)

甘く見ていました。何の用意もしていかなかったため、薄目を開け、ゆっくり鼻で呼吸をしながら、時折「痛！」と叫びながら、なんとか半分を終えたところでタイムアップ。終わった時は振動で手がしびれ、髪の毛は真っ白になっていました。

翌日は、帽子・サングラス・マスク・軍手・長靴で完全武装。しかし、機械の刈歯がぼろぼろになってきており、昨日より作業がはかどりません。

それでも何とか14時過ぎにはほぼ完了。本当は格子状に刈りたかったのですが、今回は妥協することになりました。日産スタジアムには遠く及びませんが、ゴルフ場のフェアウェイ程度にはなったと思います。

(内田 佳彦)

理事長の戯言

学校開放で修悠館高校を借用することになりました。昨年の4月、県立高校の統廃合により、旧和泉高校だったところを通信制専門高として開校したため、体育施設の利用頻度が下がりがり校庭は草ぼうぼうとなりました。

それでもはじめは練習試合用にと考えたのですが、国際チビツ子の幹事チームとなってしまう、急遽会場提供することになりました。

さすがにこれではと思い、草刈りを行うことにしました。

幸い自走式の草刈機をお借りすることができたため、半日もあれば終わるだろうと思ったのが大間違い。

刈り幅 60cm で、速度が2km/h くらい。ちっとも前に進みません。おまけに草がまばらなところでは埃が舞い上がり、小石がものすごい勢いで飛んできます。

